

# 地域とのつながりを大切に 必要とされるセンターを目指す

公益社団法人豊見城市シルバー人材センター（沖縄県） 総務主任 平良宏樹



## 市の特長

豊見城市は、沖縄本島南部に位置し、ビニールハウス栽培などを中心に都市近郊型の農業が行われ、マンゴー、トマトなどの栽培が盛んです。



豊見城市は、平成12年に沖縄県内で初めてマンゴー拠点産地に認定され、平成21年には「マンゴーの里」を宣言した（写真提供：豊見城市）



豊見城市は、ハーリー発祥の地といわれている。ハーリーは、豊見城城主の汪応祖（わんおうそ）が、中国に留学した際に龍船による競漕（きょうそう）を見て感動、それを沖縄に伝えたのが始まりとされる（写真提供：豊見城市）

面積は19・33km<sup>2</sup>、令和6年9月末日現在の人口は約6万6000人で、周囲は京都の那覇市、南風原町、八重瀬町、糸満市に隣接し

ています。平成14年の市制施行後、「全都市／成長力ランキング」（東洋経済新報社「都市データパック」）において常に上位に位置するとともに、市区別年少人口比率でも全国1位（令和6年1月1日現在）になるなど、若さがあふれる活力ある市です。

## センターの概要

当センターは平成14年に県内11番目のシルバー人材センターとして発足し、令和4年度に20周年を迎えました。令和5年度の会員数は534人、粗入会率は3・1%と全国でも高い水準に位置しています。

女性会員数も228人で全体の約42・7%を占めており、沖縄県内では女性会員の比率が最も高くなっています。「放課後子ども教室」や「介護予防・日常生活支援総合事業」など、女性会員が活躍している仕事も多く、生き生きと楽しく就業に励んでくれています。

## 安心・安全な就業

ほかのセンターと同じように当センターでも会員の高齢化が進んでいます。このような中、加齢が大きな要因の一つだと思われる就業中の事故やけがが増加しつつあります。特に車両に伴う事故は、一つ間違えれば命に関わることから、憂慮すべき課題であると同時に、会員個々人に体調管理を徹底してもらうことも重要であると感じています。

先般、会員の1人が就業中に急に意識を失うという事例がありました。幸いにも居合わせた事務局職員が心臓マッサージを行うなど



ドクターカーを導入するためのクラウドファンディングに協力。会員からの心温まる募金をドクターカーを運用する医療法人へ手渡した

の迅速な対応もあり、大事に至ることはなく、胸をなで下ろしました。この時、現場ヘドクターカーで駆け付け、初期対応に当たってくれた病院関係者には感謝してもしきれません。

後日、ニュースで、市内に所在するこの病院が新たなドクターカーの導入に向けてクラウドファンディングを行っているとの情報を受け、会員の救命に尽力してもらったことや、その活動内容に感銘

を受けたことから、当センターでも募金活動を始めることにしました。折しも、安全・適正就業強化月間中であつたことから、センターの安全・適正就業推進大会においても、多くの会員から心温まる募金が集まりました。

このクラウドファンディングでは最終的に2300万円余りの資金が集まり目標金額を達成したことで、新たなドクターカーの導入が実現したそうです。当センターの会員が助けられたように、多くの賛同者の善意が一人でも多くの人を助けることを期待しています。私たちシルバー人材センターの大きな役割の一つが、こうした「地域とのつながり」だと思えます。会員にとつてセンターに入会することは、単に「働くこと」が目的ではありません。就業を通じて会員が地域社会と関わりを持ち、生きがいや、気持ちに張り合いが生まれることで健康にもつながる。そして共に働くことで仲間もでき

る。さらにサークル活動に参加できればなお、楽しく過ごせるのではないのでしょうか。

### 会員拡大を目指して

会員の拡大、特に女性会員の拡大は大きな課題の一つでした。日頃、女性会員と言葉を交わす中で感じたことは、「仕事だけを求めて入会している人は少ない」ということです。

当センターではここ数年、女性



学童クラブでの「しまくとうば（沖縄方言）指導の様子。そのほかにも「介護予防・日常生活支援総合事業」などで、多くの女性会員が活躍している

会員が増加しました。要因としては、①チラシなどの広告に女性を前面に出すこと、②「シルバー草刈り」というイメージからの変換、③20周年を契機としたサークル活動の充実などを図ったことが挙げられます。

また今後は、これまで新型コロナウイルス感染症の流行により中止していたピクニックなどの各種イベントも再開させ、「シルバー高年齢者の楽しい居場所」だと思えるようなセンターにしていきたいと考えています。

### 今後に向けて

インボイス制度やフリーランス新法、これらに伴う新契約方式への移行など、シルバー人材センターを取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。一つ一つ課題と向き合い、会員から求められるセンター、地域から必要とされるセンターとなるよう、日々の業務に取り組みたいと思います。